

## 池めぐりコース[探索歩道]

池めぐりコースは硯川(すずりかわ)バス停を起点とする中級者向けの自然探索歩道で、バス停からスキーリフトに乗って5分で歩道の入口まで行くことができる。そこから終点の清水口(しみずぐち)バス停までは全長9.6キロメートルの道のりだ。標高差は360メートルで、所要時間は3時間30分。

池めぐりという名前のとおり、このコースでは、雪解け水や雨水が流れ込む風光明媚な池の数々を通っていく。池の水位は季節によって変動するが、これは高層湿原環境ならではの特徴である。

渋池(しぶいけ)では、植物でできた浮島を見ることができる。島は植物の根の間にたまったガスによって浮かんでおり、所々モウセンゴケに覆われている。モウセンゴケ(Drosera rotundifolia)とは、粘着性のある非常に細い突起で虫を捕らえる、表面が緑と赤の食虫植物である。秋になると、モウセンゴケは周囲の木々の色鮮やかな紅葉に引けを取らないほど真っ赤になる。

渋池から高床式の遊歩道をさらに歩くと、四十八池湿原(しじゅうはちいけしづげん)と呼ばれる広い湿地に入ってくる。水辺にはクロベと呼ばれる青々とした常緑樹がうっそうと茂っており、クロベのそのしなやかな枝は古くからかんじき作りに使われてきた。

このコースの中で最も雄大で見事な眺めは大沼池(おおぬまいけ)だ。その広大な水域は、地表から洗い流されてきた硫酸銅によってコバルトブルーに変色している。時折、火山ガスの泡が砂利の地層からしみ出てきて、湖面でそっとはじけるのが見える。